

一般質問

主な質問と答弁

児童生徒の熱中症対策

水分補給と保冷剤使用等 柔軟な対応に努めていく

平川 和美

(藤沢市公明党)

質問 今夏の猛烈的な暑さに、保護者から、児童生徒を心配する声が聞かれるが、授乳室の水分補給や保冷剤の使用について、教育委員会の対応を聞きたい。

答弁 熱中症対策の水分補給は、本人の意思による給水に加え、学習内容や学習環境に応じて定時給水の時間を設定するなどして、熱中症予防に努めている。

質問 熱中症対策として、ミストシャワーが効果的であり、全ての学校に設置してはどうかと考える。また、授乳室の水分補給や保冷剤の使用について、教育委員会の対応を聞きたい。

答弁 簡易なミストシャワーを既に独自に設置している学校もあり、これらの学校の使用状況等を未設置校に情報提供を行い、各学校の要望に応じて対応していきたい。庁舎入り口の設置については、ミストシャワーがかかることを望まない方がいることも想定されるため、固定的な設備の設置には課題があると考えてお



熱中症対策として学校に設置された簡易なミストシャワー

れないとの声があるが、その状況や原因について聞きたい。

答弁 職員の給与の支給がおくれないというものは基本的にはないが、各種の手当によっては、申請時期により支給額に過不足が生じることがあるため、当該職員に確認し、速やかに対応するよう心がけている。

質問 職員のモチベーションの維持は非常に重要であり、常勤、非常勤に関係なく、行っていないかという点について、本市の非常勤職員の報酬が振り込み

り、可動式の導入について検討していきたい。

答弁 報酬等の支払い遅延再発防止策を徹底

質問 職員のモチベーションの維持は非常に重要であり、常勤、非常勤に関係なく、行っていないかという点について、本市の非常勤職員の報酬が振り込み

り、可動式の導入について検討していきたい。

答弁 報酬等の支払い遅延再発防止策を徹底

避難行動要支援者名簿の活用を進める

武藤 正人

(藤沢市公明党)

質問 避難行動要支援者名簿の提供状況や、名簿についての課題と今後の取り組みについて聞きたい。

答弁 名簿の提供状況については、本制度における支援の中心となる自治会・町内会や自主防災組織を初め、

民生委員児童委員、消防局、警察へ提供している。自治会、町内会等476団体のうち約8割となる397団

体を提供している。



避難行動要支援者名簿の活用支援のリーフレット等

会を除き、全ての自治会・町内会に受領していただくよう取り組みを進めていく。二つ目は、名簿の活用について具体的な行動に繋がるよう促していくことである。自主防災組織等に対するアンケート調査の結果では、名簿を受領したものの、具体的な活用方法がわからないことや、名簿情報

の管理が難しい、また、担い手が不足しているといった意見があった。このような意見を踏まえ、今後、実情に応じて、取り組めるよう、具体的なステップや名簿の管理方法を示した資料の作成を進めていく。また、アンケート調査項目を見直し、具体的な活用事例についても収集を行い、事例集を作成するなど、活動に結びつくよう取り組んでいく。

質問 国民健康保険料等、国民健康保険料、介護保険料等の軽減について、市民からの特に要望が強くあることから、優先的に取り組むべきかと考えるが見解を聞きたい。

答弁 国民健康保険料の料率は、直近の保険財政の収支を勘案するとともに、前年度からの繰越金の見込み額を試算し、その多くを保険料賦課総額に充てた上で算定している。具体的には、平成29年度は被保険者の1人当たり約4400円の保険料の引き下げを行い、また、30年度は前年度と同程度の保険料水準としていく。市としては、国民健康

市民サービス向上に活用

AI技術の導入

活用策を検討していく

吉田 淳基

(ふじさわ湘風会)

質問 AI(※)技術の活用は、業務の効率化、行財政改革の視点だけでなく、さまざまな課題解決や市民サービスの向上に資するものであるが、本市として今後どのような活用を考えているのか聞きたい。

答弁 AI技術は、効率化や行財政改革の視点による費用削減のみならず、現行の行政事務の置きかえや市民サービスの向上など、さまざまな可能性を秘めた技術であると考えている。

現在、市民サービスの向上につながるもの一つとして、対話形式で市民からの問い合わせに対応する、いわゆるチャットボットについて情報収集を行っている。スマートフォンからAIと対話しながら気軽に問い合わせができるもので、求めている情報にたどり着きやすくなることを期待されている。一方で、職員による問い合わせ対応業務の減少が見込まれ、生み出された時間を他の業務に振り向けることが可能となることや、問い合わせ内容が蓄

積されることで、住民ニーズを的確に把握し、政策や事業に反映しやすくなることを考えられる。今後も、市民サービスの向上に資するAI技術の活用策について検討を進めていく。

質問 本庁舎広場の芝生適切な維持管理を

答弁 本庁舎広場は、市民が集い、憩えること、また、ヒートアイランド現象の抑制

を目的に芝生を設

置している。

芝生の維持管理については、敷地も含めた本庁舎の総合管理業務委託の中で、日常清掃業務の一環として、芝生内の散水、雑草の除去等を適時行うこととしている。委託した日常清掃業務全般は、実施された作業内容のチェックを行っているが、芝生の手入れに関する細則は、育成状況等をみながら、別途協議して定めることとしていたため、芝生の維持管理について、チェックは行っていない。芝生の手入れについては、受託業者との連携が不十分だったことに加え、手入れに関する見識が不足していたこともあり、適切な維持管理ができなかった。今後は、芝生に関する専門的な知識、技術が必要で

質問 本庁舎広場の芝生適切な維持管理を

答弁 本庁舎広場は、市民が集い、憩えること、また、ヒートアイランド現象の抑制

を目的に芝生を設

置している。

芝生の維持管理については、敷地も含めた本庁舎の総合管理業務委託の中で、日常清掃業務の一環として、芝生内の散水、雑草の除去等を適時行うこととしている。委託した日常清掃業務全般は、実施された作業内容のチェックを行っているが、芝生の手入れに関する細則は、育成状況等をみながら、別途協議して定めることとしていたため、芝生の維持管理について、チェックは行っていない。芝生の手入れについては、受託業者との連携が不十分だったことに加え、手入れに関する見識が不足していたこともあり、適切な維持管理ができなかった。今後は、芝生に関する専門的な知識、技術が必要で

あることをしっかりと認識した上で、来年度以降の総合管理業務について、委託内容の見直しを行い、当初の設置目的である、市民に親しまれ、集い、憩える広場となるよう、適切な維持管理に努めていく。

質問 湘南大庭の課題解決モデル地区化を

答弁 湘南大庭地区は、都市と農業の調和するまちとしてまちづくりが進められてきたが、現在は、昭和50年代に住み始めた人々とその子どもの世代が多く、高齢化が顕著になっており、消防体制、コミュニティの希薄化、認知症対策、外出支援、住宅の老朽化などが課題として表れてくると考えられる。しかし、少子超高齢化に向き合い、共生していく地域づくりという視点に立つと、地区の活性化や新たな地域づくりに関する多くのチャンスがある地区でもある。高齢化の進展などを踏まえた住居介護医療、健康、就労や世代間交流、空き家対策などのさまざまな領域において注目される地区であり、また、ロボットタクシーの実証実



新たな地域づくりについて注目されている湘南大庭地区

※AI…人工知能。コンピューターを用いて人間の脳がもつ知能や機能を実現させようというもの。